

先日、娘が海外旅行に行った際、その道中に「とても感動した出来事」があったとうれしそうに話をした。外国人観光客がよく訪れるその国の人達は観光客に対して親切で温かく、行く先々の観光地では楽しい思い出がたくさんできたのは言うまでもないが、その観光地巡りを終え、宿泊先ホテルへ戻るときに乗車した電車内での出来事に感銘を受けたようだ。

電車内は観光客や地元の人達で満員だったので、観光地巡りで疲れた娘は立ったままでの移動となり、吊り革にもたれるようにしていた。すると、目の前に座っていた、娘と年齢が同じくらいの仕事帰りと思われる地元の女性が片言の日本語で「ダイジョウブ？スワリマセンか？」と席を譲ってくれようとしたらしい。娘はその場は断ったものの、後になって、もし自分が逆の立場だったら彼女のような行動がとれたかどうか自問自答し、彼女がさりげなく、しかも、それが当たり前かのようにとった行動に驚き、感動したという。私にも「自身も仕事で疲れちゅうかもしれないの

海外旅行で感動した出来事

に、そんなこと普通にできる？」とうれしそうに聞いてきた。娘には海外旅行の経験以上に人に対する思いやりのことについて考えさせられる体験ができたようだ。

私も、同じような思いをしたことがある。道路路上にある点字ブロック上に自転車が置かれていた。ある人がブロックにさしかからないように自転車を動かしているのを目にしたことがある。

自分が思いやりのある行動を取ろうとするとき、本当にそれができるだろうか。勇気のいることとは思いますが、自分や娘が体験したような、相手を敬う気持ち、相手の立場に立って考える気持ちをいつも大切にしたい、と考えた二日だった。

*このシリーズはあなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

■問い合わせ

人権啓発広報委員会

☎ 880・6569